

○年 孫兵衛死後廿一年の後、寛永十八年辛巳、江戸大炊殿橋の敵討と世にいへるは是なり、○下

〔正慶承明集〕二三月<sup>〇承應</sup>十五日、今日於川崎敵仇討有之候、討手者京極刑部少輔家人、當時浪人

吉見半之丞、<sup>先知三百石</sup>被討手ハ加藤式部少輔家人、浪人村井彌五右衛門、<sup>先知二百石也</sup>其意趣

者吉見半之丞兄ハ小野妙藏院ト云御朱印所住侶也、件之彌五右衛門者少出入有之、三年以前彼

僧を切殺し立除たり、依之半之丞暇を取、敵者聞有京都ニ急上京シテ板倉周防守ヘ子細を訴、見

合次第討申度之旨ヲ申、周防守者禁裏之外在々所々、於何方も可遂其意趣之由賜書付、然ル處に、

敵仇關東ヘ下りたるの由傳聞て、今日於川崎討之、仍其宿ヲ捕之、周防守之證文を出ス、依之無別

條、

〔半日閑話二編五〕一文化元子年三月十三日夜七ツ時

討手

敵

武州高麗郡高萩村田安御殿

富五郎

同州川越赤尾村無宿

林藏

右武州上尾宿旅籠屋清右衛門宅にて討申候、此處は御代官淺岡彦四郎支配所なり、富五郎兄兵

左衛門ハ、戌年御代官伊奈友之助支配所川越大塚野新田にて、林藏が爲に討たれたるなり、

〔續視聽草三集四〕天保四巳年十二月廿六日朝、兄三右衛門<sup>〇山</sup>雅樂頭金部屋泊番之節、表小使龜

藏ト申者手爲負逃去り、行衛相知不申、右疵に而相果申候、依之行衛相尋、兄敵討取申度段、主人本

多意氣揚々雅樂頭江相願、同五年二月廿六日、大久保加賀守様江、雅樂頭ハ御届申達候上、願之

通被申付致他國候、其後所々相尋候處、昨十三日夕七時頃、兩國橋邊ニ而見掛候ニ付跡付參、神田

橋御門外ニ而相糺候處、右三右衛門江手爲負候龜藏ニ相違無之趣申聞候間、依之りよ儀、酒井龜

之進様罷在候ニ付、供之者文吉を以呼ニ遣し、夫迄不取逃様手繩掛ケ置りよ參候上ニ而爲打果

申候、尤りよ始終仕留候而留メハ私仕候、右之段當辻番所江御届申上候、此外可申上候儀無御座